

特別の教科 道徳 学 習 指 導 案

日 時 令和4年9月10日(土)
第2校時 9:50～10:40
対 象 第1学年
学校名 世田谷区立駒沢中学校
授業者 各担任
会 場 4階1学年教室

1 主題名 「競争は学校に必要か」(内容項目:A-4 「希望と勇気、克己と強い意志」)

2 資料名 「世界が驚いたニッポン! スゴ～イデスネ!! 視察団 小学校&缶詰2時間SP」

3 主題設定の理由

(1)ねらいとする価値観について

学校の中にはさまざまな競争が存在しており、その中には目に見える競争もあれば、目に見えにくい競争もある。競争は格差を生み出し、いじめや落ちこぼれを生み出す原因となるため必要ないといった声がある反面、競争があるからこそ意欲が向上して人は成長できるといった真逆の声も多く存在する。本時はどのような競争であれば効果的で、どのような競争であればそうでないのか、競争によい競争と悪い競争があるのかなど、さまざまな視点から競争が必要かどうかを考えることによって、自分が目指す自分に近づくために過去の自分と競争し、自己の向上に努め充実した生き方を追求しようとする道徳的判断力と実践意欲や態度を育てる。

(2)教材について

生徒は日本の教育の中で育ってきているため、競争は当たり前という認識である。そこで、その当たり前を揺さぶるために、「世界が驚いたニッポン! スゴ～イデスネ!! 視察団 小学校&缶詰2時間SP」(2016年2月6日放送)で取り上げられたフィンランドと日本の教育の違いを見せる。フィンランドの小学校の校長先生が日本の小学校を訪問して驚いたことをランキングした内容で、その第2位が「マラソン大会の順位づけ」だった。フィンランドの校長先生は反対だったのに対し、日本の校長先生は反論し、結局最後まで話は平行線をたどり、お互い納得することはなかった。この映像を通して、生徒たちが日本の教育の当たり前に縛られずに議論を進められるきっかけにしたい。

(3)生徒の実態について

5月の河口湖移動教室ではオリエンテーリングがあったが、一番早くゴールを目指すグループが出るなど、競争することで本来のルールを逸脱した行動が見られた。また、6月の運動会では練習段階から勝敗にのみこだわり、対戦した相手に敬意を払えないことあった。このように、競争により勝敗がつくことや順位がつくことが目的となり、それが自己の成長に結びついていないのが課題である。

4 年間指導計画における位置づけ

2学期となり学校生活にもだいぶ慣れてきた。6月に初めての定期考査があり、仲間同士で点数を見せ合い勝ち負けを競ったり、5月の運動会や部活動の夏季大会、コンクールなど、勝敗や順位がついたりという経験が増えてきた。このように、中学生になってこれまで以上に「競争」というものを意識するようになった。ただこれらの経験も、勝ち負けだけにこだわってはいは、成長にはつながらない。10月には合唱コンクールが行われるが、競争を通して自己の成長につながるような合唱コンクールを学年でつくり上げていきたいという思いがあり、改めて競争について考える機会とした。

5 本 時

(1) 目 標

「競争」を自分事に捉え多面的に議論することを通して、過去の自分より成長することがよりよく生きることにつながると気付くことができる。

(2) 話し合い活動での工夫（感染症予防も含む）

感染症対策としてマスクを着用して話し合い活動をさせる。話し合いは基本4人班とし、少人数で一人一人が意見を出しやすくする。話し合いの際は、ロイロノートのシンキングツールを使用し、考えを整理して可視化できるようにする。また個人やグループでの考えを、学級全体で共有することで、多面的に議論できるよう工夫する。

(3) 展 開

時間	主な学習活動と主な発問	予想される生徒の反応	◇教師の支援・指導上の留意点 ◆評価の観点
導入 5分	① 本時で議論するテーマについて理解する。 【全体活動】 ①「競争にはどんなものがありますか」に対する自分の考えをだす。	① 「運動会」「オリンピック」「マラソン大会」「模試」「成績」「部活の大会」「合唱コンクール」など	◇ 根拠を大切にしよう伝える。
<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 本時の目標：自分の成長に「競争」がどう影響するのかを考えよう </div>			
展開 40分	② 自分の意見に根拠をもち、考える。 【個人活動→班活動】 ① ワークシート1「競争は」につながる□部分と根拠を書き、発表し合う。 ② 次の議論につなげるために、質問や新たに生まれた疑問をメモ欄に書いていく。 ③ 相手の意見を受け入れ、議論を深める。 【全体活動→個人活動→班活動】 ③ 競争社会の日本とは違う視点のフィンランドの教育を知ってもらうために動画（3分）を見せる。 ④ ワークシート2「学校	① 「互いを高め合うことができる」「勝つことを目的としているため、負けると何も残らない」「格差を生み出す」「人を成長させる」 ② 意見の違いが後のディスカッションにもつながるため、どのような違いがあるのかに注目する。 ③ 競争は「学校」に必要なという論点に注目する。	◇学校に必要である／必要でないの結論をいきなり出すのではなく、そう考えた根拠について議論していくことを意識させる。 ◇発表を聞きながら、ディスカッションのイメージをもてるように声かけをする。 ◇多面的な発言が出やすくなるよう、グループの中の意見を聞きながら発問を繰り返す。 ◇生徒に一人1回は深めるための質問をするよう投げかける。また、一つの質問に対し、最低2回はやりとりをし、考えを深めていくよう伝える。 ◇一つの答えを出すので

	<p>に競争は必要ですか」を書き、発表をホワイトボードにまとめ、タブレットで撮影し、ロイロノートに提出する。</p> <p>⑤ 相手の意見を受け入れ、自分の考えを整理するため、メモ欄に書いていく。</p> <p>(4) 意見を受け入れ、自分の考えを再構築する。 【個人活動→全体活動】</p> <p>⑥ ワークシート3「授業を通して感じたこと、考えたこと、気付いたこと。」を書く。</p> <p>⑦ ワークシート3を交流する。</p>	<p>た方がやる気が出て、点数がアップする」「部活動のレギュラーを決めるときに、競争相手がいるからこそベストを更新できる」「まわりと比べられると、いつも下なのでやる気が出ない」「学校では格差が生まれ、いじめを助長する」</p> <p>⑤ 意見の違いが後のディスカッションにもつながるため、どのような違いがあるのかに注目する。</p> <p>⑥ ここまでの議論を通して、競争は学校に必要である／必要でない、の結論を出す。また、そう考えた根拠をまとめる。</p> <p>⑦ 相手の意見を聞き、自分の考えをブラッシュアップする。また、どのように変化したかを認識する。</p>	<p>はないため、さまざまな議論を進めるようアドバイスをする。</p> <p>◇自分の経験も踏まえて議論を進めるよう促す。</p> <p>◇思考を深めることの重要性を伝える。</p> <p>◆自分で一生懸命考えさせ他人と競争するのではなく、過去の自分と競争することが自分の成長につながることに気づき、自分の考えを深められている。</p>
<p>終末 5分</p>	<p>(5)本時のふりかえりとまとめ 【個人活動】</p> <p>⑧ 自己評価に取り組む。</p>	<p>⑧ 評価の四つの柱を意識できたかを自己評価する。</p>	<p>○ 今回考えたことを少しずつ行動に移していくように伝える。また、10月末に実施される合唱コンクールにつなげる。</p>

(4) 授業観察の視点

- ・ 自己の向上に努め充実した生き方を追究しようとする道徳的判断力と実践意欲、態度を育てることができていたか。
- ・ ホワイトボードや、ロイロノートを活用することで、議論を深めることはできていたか。

○参考文献○

荒木寿友「問いにこだわり知を深める授業づくり」『第2章実践編 競争は学校に必要か』

○映像資料○

「世界が驚いたニッポン！ スゴ〜イデスネ!! 視察団 小学校&缶詰2時間SP」(2016年2月6日放送) <http://youtu.be/khYmSUu1L78>

競争は学校に必要か

1 年 組 番 名前

1「自分の意見に根拠をもち、考える」

競争は

根拠

「議論を深める」メモ

2「意見を受け入れ、自分の考えと根拠を再構築する」

学校に競争は 必要である / 必要でない （どちらかに○を付ける）

なぜなら

「議論を深める」メモ

3 今日の授業を通して感じたこと、考えたこと、気付いたこと など

4 自己評価をしよう

- (1)「自分で」一生懸命考えられた…………… (4 ・ 3 ・ 2 ・ 1)
- (2)「人の意見」に耳を傾けられた…………… (4 ・ 3 ・ 2 ・ 1)
- (3)考えを深める「質問」ができた…………… (4 ・ 3 ・ 2 ・ 1)
- (4)相手の意見を受け入れ、自分の考えを「深め」られた…………… (4 ・ 3 ・ 2 ・ 1)